

地方行政

◎昭和23年7月9日 第3種郵便物認可◎毎週2回月・木曜日発行(但し祝日を除く)◎購読料金 月額5,830円(税抜5,300円)
発行所 〒104-8178 東京都中央区銀座5丁目15番8号 時事通信社

道標

コロナ禍後の「アンラーニング」

まつお よしあき ありた
松尾 佳昭 佐賀県有田町長



有田町は佐賀県の西部に位置し、面積は65・85平方キロ、人口は約1万9000人で、東西を黒髪連山と国見連山に囲まれた、豊かな自然に恵まれた土地柄です。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック(世界的大流行)は、日本国内の全自治体を同様に苦しめました。そして本年5月8日、2類感染症から5類感染症に移行されました。コロナ禍を終え、新たな時代となりました。

庁内では、四つの目を持って仕事に取り組みよう指示しております。鳥の目(俯瞰的に全体を見る)、虫の目(ミクロ・局所的に

見る)、魚の目(時代の変化や先を見る)、そして蝙蝠の目(反対や逆さまにして見る)です。3番目の「魚の目」に近い視点で、「アンラーニング」があります。

この機会に、これまでの考えを捨て去る「アンラーニング」を推進し、環境やルールの変化に適応できるようにしたいものです。

既存のやり方や概念、ルーチンなどを捨て、新しいスタイルを取り入れましょう。今まで持っていた知識・スキルのうち、有用でなくなったものを捨て、代わりに新しい知識・スキルを取り入れていきましょう。コロナ禍後の時代の変化が激しい今こそ、最高のタイ

ミングです。

自治体のような保守的な組織ではアンラーニングは起こりづらいものですが、首長が自ら旗振り役となり、積極的に挑戦しています。日々の業務など、固定概念や慣習の思い込みを進めていることも多くあります。まずはプロジェクト単位、課内などのチーム単位で取り組むことから始めています。

コロナ禍後の新しい時代と捉え、これまでの価値観や知識を見直して取捨選択し、新しいものを取り込みます。「アンラーニング」こそ、地域の明るい未来につながる信じ、まちづくりに取り組んでまいります。

2023年(令和5年)

10月16日[月]

第11247号・合併号

目次

連載	2
富士通総研—公共政策研究⑤ 社会保障政策の 「重心」見直しを 「年齢」から「ジェンダー」へ	
連載	5
山族公務員の視点⑩ —小さな世界都市の挑戦— 注目される 兵庫県豊岡市のまちづくり	
行政EXPRESS	8
霞が関がかわい 令和の「日本列島改造論」	8
一家言	9
ベビーブーム世代と米国	
農政ウォッチング	10
再生二期作で画期的な多収	
9月の公募地方債発行条件	11
月曜連載	12
縮退社会における都市経営 —官民共創リポート④— DXで住みよいまち、 働きやすい市役所へ 小笠原春一・北海道登別市長 インタビュー(後編)	
月曜隔週連載	16
政治・行政がかわいの 「装い」あれこれ⑦ 時代を映す大事な鏡！ 女性政治家の「見せ方」論	
V字回復した公営競技	18
コロナ禍で需要取り込み —ネット販売が寄与—	
点描・永田町	20
首相の本音は 「来年7月総選挙」?	